

様式2

附属機関等の名称 会議概要

- 1 審議会名 平成28年度第1回安曇野市介護保険等運営協議会
- 2 日 時 平成28年 5月30日(月) 午後1時から午後2時40分まで
- 3 会 場 安曇野市役所3階 全員協議会室
- 4 出席者 藤松寛子委員、中島美智子委員、堀内隆雄委員、桜井洋子委員、金原健次委員、三澤保雄委員、宮澤栄子委員、藤森昇委員
(欠席委員：山田高久委員、山田守二委員、黒木昌一委員、堀祐子委員)
- 5 市側出席者 堀内保健医療部長、古畑課長、藤原課長補佐、西澤係長、新保係長、平田係長、岩原主査(事務局担当者)
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 3人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成28年5月30日

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
 - (1) 開会(古畑課長)
 - (2) あいさつ(堀内部長)
 - (3) 委嘱書交付(堀内部長)
 - (4) 会長・副会長選出
会長：中島美智子委員、副会長：山田守二委員が選出、承認された。
中島会長あいさつ
 - (5) 会議事項
○安曇野市介護予防・日常生活支援総合事業の実施について
○安曇野市生活支援体制整備事業の実施について
○その他
 - (6) 閉会(古畑課長)
- 2 審議概要
事務局より(1)、(2)まとめて説明
 - (1) 安曇野市介護予防・日常生活支援総合事業の実施について
 - ①介護予防・日常生活支援総合事業の実施について
 - ②安曇野市の現状について
 - ③安曇野市の介護予防・日常生活支援総合事業の概要について
 - ④サービス類型について
 - ⑤介護予防ケアマネジメント
 - ⑥実施までのスケジュールについて
 - (2) 安曇野市生活支援体制整備事業の実施について
 - ①生活支援体制整備事業について
 - ②安曇野市生活支援体制整備事業について

委員より意見・質疑

委員：生活支援コーディネーターは、日常生活圏域を中学校単位として考えると、穂高・豊科地域は2人ずつ必要ではないか。同じ中学校でのお父さんお母さんの繋がりがあのように、コーディネーターも7つからスタートしたほうがいいのではないか。地域包括支援センターは3包括でスタートしたが、後から増やすのが大変である。コーディネーターを5地区で始めることについてお聞きしたい。

事務局：生活支援コーディネーターは、今年より日常生活圏域に1人として豊科、穂高、三郷、堀金、明科の5地区に配置した。各地域性を重視して配置をした内容であり、まずは、この5地区からはじめていきたいと考えている。

委員：総合事業は、要支援の方のためのサービスだけではなく、総合的な福祉事業として解釈している。これまでも老人福祉法の中で、市町村の責務として市が高齢者福祉事業の主体となっていた。総合事業のサービス提供については、一般に、事業者の参入やボランティアの担い手の養成として民間に期待するだけでなく、市が積極的な人材育成をし、事業展開を考える必要がある。事業が展開されないと、今後、サービスを受けられない高齢者が増えることが懸念される。例えば、公民館で介護予防事業を展開するなど、市の具体的な戦略があったほうがいいのでは。

事務局：新総合事業では介護予防を推進する一般介護予防事業も位置付けられている。今年度の介護予防事業では、介護予防教室等に参加していただき、介護予防の必要性を実感し、その経験から自分たちで介護予防の取り組みを実践することができるよう拠点介護予防事業に取り組むこととしている。地域の介護予防の自主活動の中には、元気な方が支える側になるような取り組みをしているところもある。新総合事業では、地域での活動の場の推進としての介護予防事業も進めていくこととしている。

委員：高齢化率が全国的に見ても長野県は進んでいる。これから地域崩壊が予想以上に始まる。高齢者の在り方を検討するにあたって、市への相談として施設入所ができずに困っているという市民の声は頻繁にないか。あるのだとすると、施設部会などで話すだけでは問題解決にならない。安曇野市は、ネームバリューはあるが、市としてまだ不十分だ。観光、住まい、教育など、安曇野市を考える人たちの総合的な意見を汲みとった総合的な会議があってもいいのではと思っている。

事務局：一般的に施設入所が必要な状況として、家族の介護力の問題、お金の問題、精神的負担の問題があげられると思う。安曇野市も同様のことはいえる。在宅生活において、要介護4、5の人を看るとき、3つの問題があると難しい。施設待機者は安曇野市にもおり、市民の方から施設入所できずに困っているという相談は受け付けているが、ケアマネ、施設、介護事業者の方々のご尽力をいただき、現在の枠組みの中で対応できている。

委員：ボランティアを育成するとの事だが、私もボランティアを募る仕事をしているが、なかなかボランティアの参加者がいない。回覧板でお知らせをするが、いつも決まった方で、新しい方は来ない。ボランティアも高齢化してきている。結局のところ、1対1の対話での声かけが有効ではないかと考え、一人が3人などと決めて参加者を募っている。元気な高齢者がどうやって地域で活動できるか悩んでいるが、この活動が第一歩と考えている。私の住んでいる地区では、回覧板が回る隣組内であいさつができる「近助」が共助、互助のはじまりであるとして、声かけを推進している。

委員：次回介護保険事業計画では、サービス付き高齢者向け住宅の状況も載せたほうがよい。

(4) その他

古畑課長より報告とお願い

① 「安曇野市の附属機関に関する指針」の改正に伴う協議会の位置づけについて協議会の設置根拠が、要綱による設置から条例による設置となる予定。条例が成立した場合、改めて委嘱が必要となるため、次回会議開催前に団体からの推薦手続きを再度いただく予定。

② 介護保険事業計画に沿った平成29年度介護施設整備に向けた実施予定候補事業者の選考会の予定について
選考会は、本年秋に予定している。選考会の委員は協議会の委員の中からの選出となる予定。